



中学校オープンスクールでSSHの活動紹介をしました。

7月31日(土)に中学校体育館で小学生とその保護者を対象にオープンスクールを実施しました。例年とは異なり、開始時間に参加者全員が中学校体育館に集合するのではなく、午前中に自由に参加して頂きました。SSHコーナーのブースを設けて、未来の致遠館生を目指す小学生にSSHの良さをアピールしました。

○課題研究コーナー：先輩の研究ポスターを、小学生にも分かってもらえるように要約をつけて紹介しました。英語のポスターも展示しており、小学生だけでなく保護者にも研究の成果をアピールしました。

○最先端機器コーナー(右写真)：3Dプリンターやドローンなど、SSH校ならではの充実した設備を目の当たりにして、小学生には楽しく体験を、保護者には本校の研究設備の充実を実感して頂きました。



○サイエンスショーコーナー(左写真)：科学部員が、「スーパーボールロケット」や「ドライアイスでシャボン玉」「色が変わる水」を体験型で実施しました。楽しむだけでなく、バネの運動、熱による気体の膨張・液体への凝縮、酸とアルカリなど理科的に興味を持ってもらえるように内容や説明を工夫して行いました。小学生に1番人気でした。

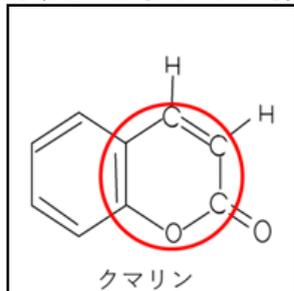
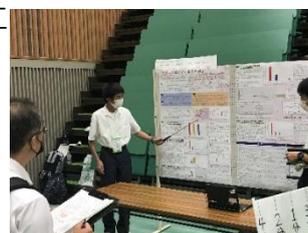


○自由研究コーナー(左写真)：自由研究のテーマや進め方に困っている小学生に、本校教員がこれまでの課題研究指導のノウハウを活かしてアドバイスをしました。小学生に大人気で長い行列ができていました。

オープンスクールで致遠館やSSHのことを知り、少しでも多くの理数好きの小学生が将来致遠館に入学してもらい、SSHを盛り上げて欲しいと思います。

科学部がわかやま総文祭でポスター発表を行い、奨励賞を受賞しました。

7月31日(土)・8月1日(日)和歌山県江の川市にある近畿大学生物理工学部で、わかやま総文祭の自然科学部門が開催され2年生の千綿環さんと野田光希さんが参加して発表を行いました。



研究は、サクラの葉に含まれる種子の発芽を抑制する「クマリン」という物質に注目し、化学構造のどの部分に発芽を抑制する性質があるかを特定し、安全な農業に活用することを目指しています。研究では、仮説を立てて証明するためたくさんの実験を行いました。結果を総合的に組み合わせ考えた結果、クマリンのラクトン構造が特に重要であることを導きました。本番では、審査員の先生に臆することなく

※○部分がラクトン構造 発表を行い、質疑応答にも自分の言葉で考え理論的に答えていました。

審査の結果、全国第4位に相当する奨励賞を受賞することができました。この結果に満足することなく、さらに研究を進めて安全な農業の貢献を実現して欲しいと思います。